

はじめに

神栖市は、人口約95,000人余りで、市立幼稚園が4園、小学校が14校、中学校が8校あり、令和元年5月1日現在の幼稚園の園児数は352人、小学校の児童数は5,340人、中学校の生徒数は2,557人であります。

市教育委員会では、子どもたちの生きる力の育成を目指し、平成30年度に「豊かな人間性と創造性を備えた未来につなげるひとづくり」を基本テーマとした「第2期神栖市教育振興基本計画」を策定し、保育所（園）・幼稚園・小学校の接続の強化や情報教育の充実、空調設備やトイレの洋式化による教育環境の整備、家庭・地域・学校が連携した家庭教育の充実、スポーツ活動を継続的に実践できる環境を整備していくなど、第1期計画の取組と課題を踏まえ、重点的に取り組む中期的な考え方や具体的施策を示しております。

本年度においては、以下の事業に力を入れて取り組んでまいります。

学力向上推進事業につきましては、学力向上プロジェクト第1ステージ（平成25年度から平成27年度までの3年間）、第2ステージ（平成28年度から平成30年度までの3年間）を経て、本年度は第3ステージ（最終年度：進化期）を実施しております。これまでの蓄積を基盤にして、「児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実践」、「各中学校区における研修体制の確立、研修の充実」、「義務教育9年間の学びの系統化」等に授業スタイルの自校化、自分化に取り組みながら、学習指導方法の工夫・改善を図り、児童生徒の学力の向上を目指します。

学校施設の躯体の耐震化につきましては、全小中学校において平成28年度に終了し、体育館等に取り付けられている吊り物の非構造部材の落下防止対策も平成29年度に全て終了いたしました。幼稚園につきましては、平成28年度に6園中4園の耐震補強工事が完了し、残りの2園につきましては、旧明神幼稚園が平成30年4月に「波崎こども園」として、旧植松幼稚園が平成31年4月に「土合こども園」として新たに開園いたしました。現在は、幼稚園の保育室と全小中学校の普通教室及び特別教室へのエアコンの設置、全小中学校のトイレ洋式化等を進めております。また、神栖第二中学校についても、令和2年4月の利用開始を目標に、校舎増築工事を進めてまいります。

ICT機器の活用環境整備につきましては、プログラミング教育が2020年度から必修化されることに伴い、ICT環境を含めた教育環境の整備を進めてまいります。また、教員の働き方改革の一つとして、児童生徒名簿、指導要録、通知表、保健情報など情報を一元管理する統合型校務支援システムを導入し、教職員の業務軽減を進めてまいります。

今年度、茨城県で開催される国民体育大会につきましては、神栖市を訪れる多くの皆様を歓迎するとともに、競技会を円滑に運営するため、市で一丸となって準備を進めてまいります。また、新たに「かみす防災アリーナ」がオープンし、各種イベントやスポーツ教室の開催を予定しております。子どもから高齢者まで誰もが楽しむことができる魅力ある施設を目指し、指定管理者と連携しながら利用促進を図ってまいります。

文化振興事業につきましては、市民が創作活動の成果を発表・観賞する場として、芸術祭や美術展を開催いたします。さらに、文化団体への支援や、文化活動の拠点となる文化センターの効果的な管理運営と施設整備を行い、芸術文化の振興に努めてまいります。

神栖市教育委員会では、今後とも教育活動の主体となる学校、家庭、地域社会の皆様と連携・協働を図りながら、より良い教育環境づくりに取り組んでまいります。この「神栖市の教育」が多くの皆様に理解され、かみす元気っ子の育成にご活用いただければ幸甚でございます。

令和元年6月

神栖市教育委員会